

保護林再編の追加検討について

(北小泊ヒバ林木遺伝資源保存林)

平成28年10月27日

東北森林管理局

北小泊ヒバ林木遺伝資源保存林

位置： 金木支署 627と (青森県北津軽郡中泊町) 面積： 3.85ha
 林相： ヒバ・ブナを主体とした天然林 (林齢：190年生、haあたり蓄積：664m³)

保護林区分の検討

本保護林は、ヒバに着目して設定されたものであるが、保護林設定面積が5haに満たず、また、保護林全体のうち、ヒバが優占する範囲は沢筋を中心に全体の半分以下であることからヒバ林の区域は極めて小さい。

さらに保護林に隣接した森林は、ヒバが主体とは言いがたく、したがって周囲を含めても5ha以上のヒバ林面積を確保することは困難。



保護林周辺の林相



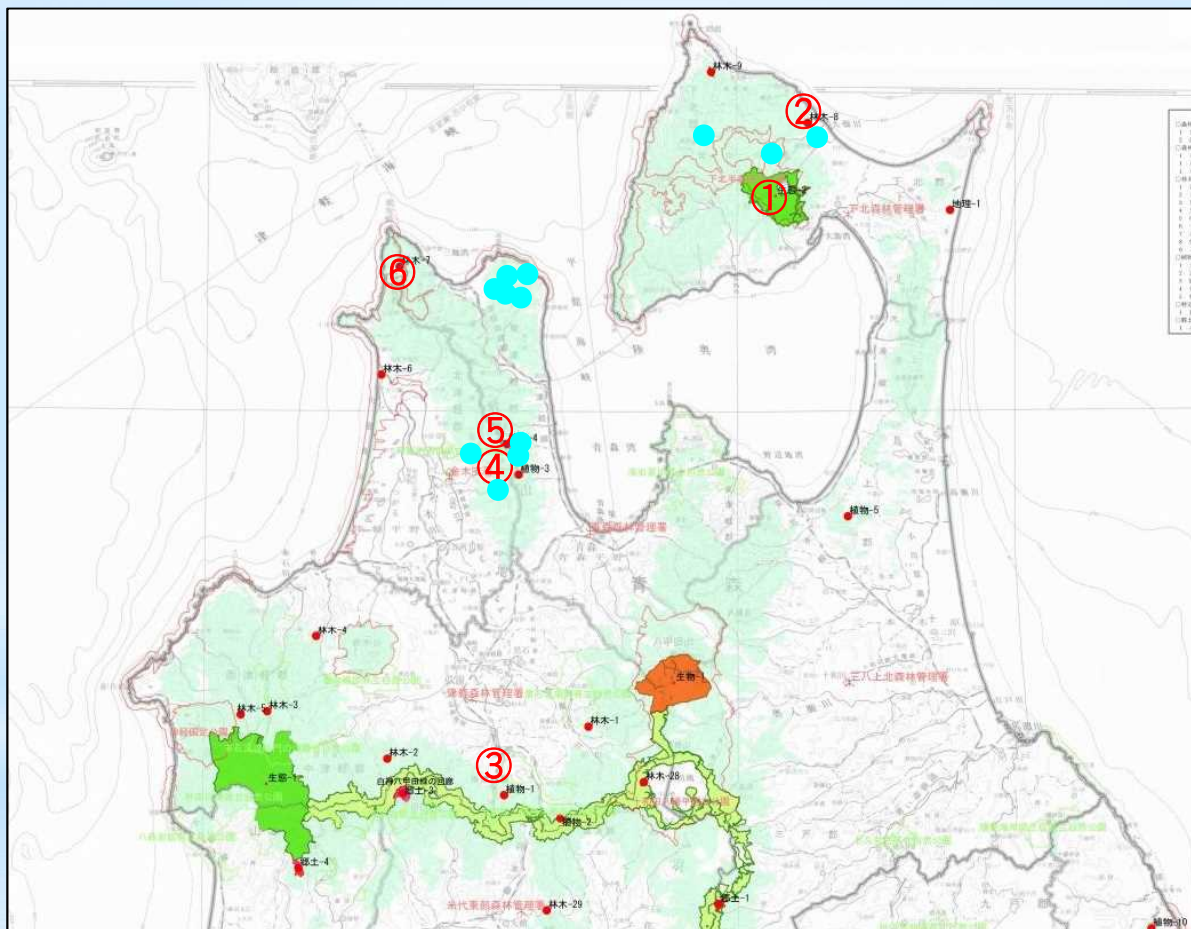
保護林の樹種別本数の推計

<haあたり換算>

胸高直径1cm以上5cm未満			胸高直径5cm以上18cm未満			胸高直径18cm以上		
樹種	本数 (本)	割合 (%)	樹種	本数 (本)	割合 (%)	樹種	本数 (本)	割合 (%)
ヒバ	(1200) 1300	100	ヒバ	(75) 100	27	ヒバ	(440) 640	100
			ブナ	125	33			
			コハウチワカエデ	75	20			
			ハウチワカエデ	50	13			
			コシアブラ	25	7			
計	1300	100	計	375	100	計	640	100

注) H27年度保護林モニタリング調査から推計したものの
 (ヒバの本数の()書きは、枯損木を除いた本数(内数))

青森県内のヒバ保護林等



● ヒバが500m³/haかつ5ha以上の小班 (12箇所)

	旧保護林区分	森林管理署等	名称	面積 (h a)
①	森林生態系保護地域	下北署	恐山山地	5,537.66
②	林木遺伝資源保存林	下北署	佐藤ヶ平ヒバ	13.67
③	植物群落保護林	津軽署	大鰐天然スギ、ヒバ混交	33.36
④	植物群落保護林	青森署	眺望山ヒバ	44.81
⑤	植物群落保護林	青森署	後潟ヒバ	154.14
⑥	林木遺伝資源保存林	金木支署	北小泊ヒバ	3.85

林木遺伝資源保存林等にかかる設定基準

【旧基準】 「生物遺伝資源保存林設定要領（昭和61年）」

○ 林木遺伝資源保存林

保存対象樹種の安定的かつ恒久的な保存を図るため、林木遺伝資源保存林の1箇所当たりの保存対象樹種ごとの個体数及び生立状態並びに面積についての基準は以下のとおりとする。

（個体数）

個体数及び生立状態については、原則として繁殖力の旺盛な個体を集団的に100本程度以上含むこと。

（面積）

5ha以上であること

【新基準】 「保護林設定管理要領（平成27年）」

○ 希少個体群保護林

原則として当該個体群がその存続に必要な条件を含む5ha以上の区域

（参考）林木遺伝資源保存林の既存設定状況

森林管理局	林木遺伝資源保存林	うち5ha未満
北海道	137	22
東北	37	3
関東	37	5
中部	32	1
近畿中国	21	0
四国	16	4
九州	33	3
計	313	38

【北小泊ヒバ林木遺伝資源保存林の今後の維持管理】

保護林の面積が5ヘクタールに満たないこと、保護林内の半分以上がヒバではなく広葉樹主体となっていること、及び保護林周囲に類似林分がないことを踏まえると、希少個体群保護林の原則には当てはまらない。今後、保護林を国際的な基準によりカテゴリー区分することとしている中、原則から大きく外れる林分を保護林とすることは難しい。

このため、機能類型を引き続き自然維持タイプに位置付け、これまで同様に自然の推移に委ねる管理を行うこととするが、保護林としては廃止する。

また、保護林の廃止にあたり、当該林分の遺伝資源の保存を一層確実なものとする方法としては、以下のような手法が想定されるところ、要望等に応じ別途検討する。

- ・ 試験地設定による方法
 - 国立研究開発法人森林総合研究所等が長期的な研究計画の下に試験及び調査研究を行う場合、必要なフィールドとして当該林分を提供。

- ・ 生息域外保存による方法
 - 当該林分の維持に加え、生息域外での林木遺伝資源の保存について協力。